

彙報

第二九回総会及び研究集会

木簡学会第二九回総会及び研究集会は、二〇〇七年二月一日・二日、奈良文化財研究所平城宮跡資料館講堂・小講堂において、一六六名の参加者（一五六名、二団体、会員外八名）を得て開催された。中でも、二〇〇七年一月に発足した韓国木簡学会の朱甫暎会長の招聘が実現し、尹善泰総務理事とともに参加されたことが特筆される。会場には、平城宮跡出土木簡・西大食堂院跡出土木簡・旧大乘院庭園出土木簡・藤原京跡出土木簡・石神遺跡出土木簡（以上、奈良文化財研究所）、平城京跡出土木簡（奈良市教育委員会）、安倍寺跡出土木簡（桜井市教育委員会）、滋賀県塩津港遺跡出土木簡（財滋賀県文化財保護協会）、新潟県延命寺遺跡出土木簡（財新潟県埋蔵文化財調査事業団）などが展示された。

◇二〇〇七年二月一日（土）一三時～一七時半

第二九回総会（議長 中村順昭氏）

栄原永遠男会長の開会挨拶のあと、韓国木簡学会の朱甫暎会長と尹善泰総務理事の紹介があり、引き続き議長を選出して以下の報告が行なわれた。

会務報告（渡辺晃宏委員）

会員の状況（個人会員三四一名、団体会員三団体、海外会員六名、二〇〇八年度新入会員八名）、会員サービス、名簿の作成、三〇周年記念事業、次期特別研究集会などについて報告があった。

編集報告（土橋誠委員）

『木簡研究』二九号の編集について報告があり、頒価を五〇〇〇円とする提案が行なわれた。

会計・監査報告（吉川聡委員・西山良平監事）

吉川聡委員より二〇〇六年度の会計（一般会計及び特別会計）の決算報告があり、これについて西山良平監事より、会計処理が適切に行なわれている旨の監査結果が報告された。合わせて、会費収入は順調だが会誌販売に工夫が必要なこと、会議費の未執行が多いこと、基金・繰越金の位置付けを整理すべきことなどの指摘があった。引き続き、吉川聡委員から、二〇〇七年度予算案が提示された。以上の案件は、すべて原案通り承認された。

研究集会

報告（司会 鈴木景二委員）

韓国木簡学会の出帆と展望 韓国木簡学会会長 朱甫暎氏

歌木簡の実態とその機能 栄原永遠男氏

荷札と荷物の語るもの 馬場基氏

朱会長の報告は、韓国木簡学会の発足と研究の現状についてのご

挨拶を兼ねた報告で、今後の積極的な学术交流の推進を確認し合うことができた。

榮原氏の報告は、歌を書くために専用で作られた木簡の存在を各地出土の木簡から考証するもの、また馬場氏の報告は、荷札木簡の機能をその使用方法に則して総合的に考察したもので、いずれも本号に論考を頂戴することができた。

◇二〇〇七年二月二日(日) 九時～一五時

研究会

報告(司会 榎木謙周委員)

二〇〇七年全国出土の木簡

滋賀県塩津港遺跡の調査と起請文札

濱 修氏・大橋信弥氏

延命寺遺跡の調査と木簡

山本 崇氏
田中一穂氏

山本氏の報告は、二〇〇七年に全国で出土が報告された木簡を紹介するもので、八〇件の遺跡を取り上げた。その多くは、報文として本誌に掲載することができた。

濱氏・大橋氏の報告は、神社とみられる遺構から出土した、起請文の原形ともいえる院政期から鎌倉初期にかけての全く類例のない木簡―起請文札―についての紹介、田中氏の報告は、天平七年の年紀を持つ売券木簡を含む事例の紹介である。いずれも、本号に報文を掲載することができた。

全体討論(司会 寺崎保広委員)

討論に先立ち、木簡を展示させていただいた安倍寺跡第二〇次発掘調査の概要について、桜井市教育委員会の木場佳子氏にご説明をいただき、また石神遺跡出土木簡について市大樹氏から補足コメントがあった。引き続き二日間の報告内容についてさまざまな観点から活発な質疑・討論が行なわれ、館野和己副会長の挨拶で閉会した。

委員会・役員会報告

◇二〇〇七年二月一日(土) 一〇時半～一二時

於奈良文化財研究所小講堂

総会・研究会に先立ち、まず委員会を開催した。土橋誠委員から会誌第二九号の編集経過についての報告があり、頒価の検討を行なった。また、諸会務と会員外参加者についての報告があり、了承された。

引き続き一時より、二〇〇七年度役員会を開催した。総会・研究会の内容、会誌第二九号の編集、会務、会計、三〇周年記念研究会・シンポジウム、次期特別研究会について報告があり、評議員の方々から、ご意見をたまわった。

◇二〇〇八年六月二六日(木) 一四時～一七時

於奈良文化財研究所小講堂

以下の案件について、報告・討議を行なった。

1 会務について。会員の異動、常任委員会などの開催、名簿の作成など。2 入会審査。新入会申込者についての報告があり、審査を

行なった。3次期特別研究会について。二〇一〇年九月三日（金）・四日（土）に東北歴史博物館において開催する旨報告があった。4会計報告。二〇〇六年度の決算報告と監査報告があり、承認された。5『木簡研究』第三〇号の編集について。編集体制と編集状況について報告があった。6第三〇回総会・研究会について。日程及び内容について検討した。7三〇周年記念事業。二〇〇九年の第三一回研究会（二〇〇九年二月五日（土）・六日（日））の二日目の午後、一般向けの記念シンポジウムを実施することが了承され（下記会告参照）、実行委員会を組織して内容を検討することになった。8その他。

◇二〇〇八年一〇月二七日（月）一四時～一七時

於奈良文化財研究所小講堂

以下の案件について、報告・討議を行なった。

1会務について。会員の異動、常任委員会などの開催。また、名簿の作成の遅延についての報告があり、次年度の刊行をとすることが了承された。2入会審査。第一回委員会に引き続き新入会申込者一〇名についての審査を行い、個人会員九名、海外会員一名の入会が認められた。3会計報告。二〇〇七年度の中間報告があり、二〇〇九年度予算案の検討を行なった。4『木簡研究』第三〇号の編集について。編集状況について報告があった。バックナンバーの在庫過剰に対処するため、今号から印刷部数を減らすことが了承された。

また、在庫削減の方策についても検討した。5第三〇回総会・研究会について。一二月に開催する本年度の総会・研究会の内容について検討し、実施要項を決定した。6三〇周年記念事業。実行委員会から内容についての提案があり、了承された。7次期特別研究会について。年度明け準備に取りかかる旨報告があった。8その他。役員改選や日本史以外の会員の勧誘について議論した。

（渡辺晃宏）